

Journal of The Infosociomics Society

Foreword

VOLUME5 No1, 2010

はじめに

情報社会学会会員の皆様

「情報社会学会誌」第5巻第1号をお届けします。

本号は、査読審査を経た原著論文4編と研究ノート2編を掲載いたしました。

原著論文「振り込め詐欺と地域社会との関連性研究」は、悪質な貸し金業者が詐欺行為に使用した電話番号と実社会の地域特性との関連性を分析した論文です。本論文で扱っている問題は、今後の情報社会においてとても有意義なことで、問題点を明らかにするために具体的数値データから結論を導き出しています。

原著論文「コモンズのビジネスモデルーインターネットでのボランタリーな価値創造とビジネスの両立ー」は、主目的である優先度概念の有効性を検証するために「異」の分類基準を考察し、ネットワークの利用モデルを設定しています。このモデルを実在するプロジェクトに当てはめ、本論の有効性を検証しています。

原著論文「地域イノベーションシステムにおけるネットワークの閉鎖性・構造的空隙を創出するビジネス・インキュベーション・プラットフォームの設計に関する研究～日本創生ビレッジをケース・スタディとして～」は、ビジネス・インキュベーション・プラットフォームの創出をテーマとし、今後の情報社会においてとても重要なテーマです。今後は、「日本創出ビレッジ」のようなケースが増えるように日本各地でビジネスが活性化されることを期待したいと思います。

原著論文「ソーシャルブックマークの時間スケールに着目した長期間利用するWeb ページ収集支援システムの研究」は、テーマであるWeb 検索の精度を向上さ

せることは、Web 利用においてとても重要なテーマであり、ソーシャルブックマークのタグと日数で重み付けをして検索結果を表示するシステムを実際に構築し、有用性を検証している点は評価できます。

研究ノート「閲覧数と更新頻度によるスパムブログの傾向分析について」は、スパムブログと通常のブログを区別する指標として、更新頻度と閲覧数に着目し、目視による確認において一定の妥当性を持った判別可能性を示したことには価値があります。

研究ノート「ネットワーク型組織知の考察～第二ビジネス世界を支えるオープンイノベーション基盤～」は、個人知からネットワーク型組織知を形成していくプロセスを考察し、知識社会に相応しい社会モデルを提示したものであり、社会的意義があると思います。

情報社会学会は、学会設立 5 周年を迎えました。ひとえに会員の皆様方のご協力とご理解があつてのことです。今後も、皆様からの積極的な論文投稿をお願いいたします。

2010 年 6 月 5 日

情報社会学会編集委員会委員長
大橋 正和